

健康志向、歩いて高めて

仁 良・神生は、地区の中央を仁良川が流れ、戸数250戸、住民1100人が暮らし、ニラ、ネギ、サツマイモを中心とした畑作、稲作の田んぼが広がる農村です。

地区にある八都第二小学校では、児童数は全体で60人と少ないながらスポーツ、そして学業に励んでおり、登下校時には、大きな声であいさつを交わす家族的のどかな地域です。

近くにウォーキングコースとして最適な橋ふれあい公園があり、健康のため、多くの人々がウォーキングをしているのを見かけます。



竹蓋 良一(仁良)
【協議会会長】



健康交流ウォーキングは、地域の神社を巡るコースや、橋堰周遊コースなど、毎回



▲健康交流ウォーキング
(上：専門講師によるウォーキング教室、下：星宮神社)

せっかくウォーキングをするのであれば、基本から学ぼうと、平成24年から日本ウォーキング協会の専門講師を招き、講演と実技を実施しています。特に歩くスピード、よい姿勢、きれいな歩き方、ウォームアップ、そしてクールダウンのためのストレッチ、靴の選び方、履き方などを学び、講師とともにウォーキングを行います。

テーマを決めて開催しています。また、終了後には地域食材で作ったとん汁が振る舞われ、喜ばれています。参加された皆さんも、正しいウォーキングの知識を習得したいと希望される方が多いため、これからもウォーキング大会を実施していきたいと思っています。

地域の皆さま、その他の地域の皆さまぜひ参加をお願いします。

まちのあしたをデザインする 市民協働最前線

住民自治協議会
現場レポート
File 3

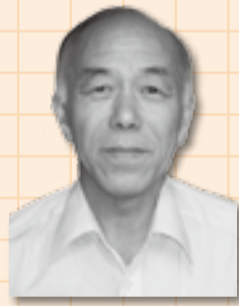
住民自治協議会(まちづくり協議会という呼び名を用いているところもあり)は、現在市内に19協議会あります。活動内容は、それまでの地域活動を発展させたものや、その土地ならではのアイデアにあふれたものなど、さまざま。それらの活動の一端を、各協議会の皆さんからご紹介いただきます(年1回、順々に各協議会に登場していただきます)。

はのアイデアにあふれたものなど、さまざま。それらの活動の一端を、各協議会の皆さんからご紹介いただきます(年1回、順々に各協議会に登場していただきます)。

沢地区住民自治協議会

設立年月：平成23年12月
会長：斎藤 知満(沢)

声かけ、心通わせて



斎藤 知満(沢)
【協議会会長】

沢 地区住民自治協議会では、特徴的な事業が二つあります。

一つ目は「ボランティア組織育成事業」で、ボランティアグループ「サワーズ」を結成し、地域の困ったことやお助けするため活動を行うという事業です。一言で困ったことと言ってもさまざまであり、

ボランティアでできることに限りがありますが、実行委員はいろいろな立場から、自分たちには何ができるのかと意見を出し合っています。

今では若いボランティアも加わり、地域の交流会「お花見会」や、お年寄り向けの「介護予防講座」を開催するなど、活動の輪を広げています。

二つ目は、学校統合により廃校となってしまう小学校を活用する「旧沢小学校の活用検討事業」です。地元やNPO法人などが中心となり、旧沢小に宿泊し、栗源と都会の子どもたちとの交流事業や、都市部の青年らが参加する沢地域内の休耕田などの

草刈りボランティア合宿を行っています。草刈りボランティア合宿時には、地元のお宅のお風呂をお借りする。もらい湯などで交流を深めており、廃校となってしまった小学校に、活気が戻ってきています。

11月には地域資源を活かし、手作りの「里山コンサート」も開催しています。協議会は、地域の皆様にご協力いただきながら活動を進めています。必要不可欠なのは人と人とのつながりだと感じています。

顔を合わせ、声をかけ、心を通わせていけるまちづくりを心掛けていきたいと思っています。



▲ボランティア「サワーズ」が「お花見会」でおもてなし



▲草刈りボランティアに草刈り機の使い方を指導

豊富な史跡、歩いて再発見



七五三 昌男(貝塚)
【教育文化部長】

小 見川南地区は、豊かな水田と里山の緑が穏やかな風景を織りなす自然に恵まれた地域です。

この地区は昔、良文村と言われ、その名前は当地区ゆかりの平良文公(たのよしあき)に由来しています。

縄文・弥生の古代の時代から人々の生活が連続と現在まで営まれてきたことを教えてくれる国指定史跡



▲良文ふるさとウォーク
(上：来迎寺、下：良文貝塚の貝層を見学)

「良文貝塚」、「阿玉台貝塚」をはじめ多くの貝塚などの遺跡や市指定文化財の樹林寺(五郷内)の四季桜、久保神社(久保)の本殿・歴史資料など、たくさんの方の良文遺産があります。

豊富な史跡を生かして教育文化部会では、毎年秋に『歴史まち・文化まち・良文遺産を歩こう！』をテーマに「良文ふるさとウォーク」を実施しています。

すがすがしい秋風の中、仲間や家族、地域の異なる世代の方々が参加し、一緒に楽しく歩き、健康的な史跡めぐりを行っています。異世代の方々との交流があり、地元への愛着がより一層深まりました。

今後とも地域と連携し、世代間交流をさらに深め、良文遺産の史跡めぐりを含めて再発見ができる魅力的な行事にしていきたいと思えます。

地元の史跡保存会などの協力もあり、改めて郷土の歴史・文化を学ぶことができたり、また、普段の何気ない景色が、ゆつくりと歩くことで違って見えたり、新しい発見をしたりすることができました。

ゴール後は、参加者全員で仲良く、手作りの豚汁とおにぎりを食べながら、おしゃべりをして楽しいひとときでした。

瑞穂地区は、市の最も西部に位置し、設立時人口3314人、世帯数1111、高齢化率19.7%。特徴は市の平均高齢化率26.9%を下回り、また、瑞穂ニュータウン地域が人口の半分を占めます(数字は設立当時)。

郷土を愛することは、郷土をよく知ることです。当地区では、今回のまちづくりの先例といえる郷土誌を、市から補助を受け、10年余りの歳月をかけ平成12年に完成させています。そして、まちづくり協議会設立を契機に、一層地域への愛着と誇りを深め、

瑞穂まちづくり協議会

郷土を知り、郷土を愛す



根本 勝雄(寺内)
【協議会会長】

「住んでいてよかった」と思え、また健康増進および住民交流の双方を図れるような行事を考え、「瑞穂史跡巡り健康ウォーキング大会」を開催することにしました。2つのコースと史跡を説明したマップを各戸に配布し、これまで2回実施しましたが、毎回スタッフを含め100名に近い参加を得、程よい汗をかき、皆で健康感を味わいました。

これに併せて「史跡案内板」を3カ所に設置しました。このほか、防災・防犯や、小学生から環境美化の標語を募集しましたが、今後も、地域まちづくり計画の目標「誰もが生涯安心して生活でき、心豊かな瑞穂の郷づくり」に向かって、皆で助け合い、一歩一歩事業を進めていきたいと考えています。

郷土を愛することは、郷土をよく知ることです。当地区では、今回のまちづくりの先例といえる郷土誌を、市から補助を受け、10年余りの歳月をかけ平成12年に完成させています。そして、まちづくり協議会設立を契機に、一層地域への愛着と誇りを深め、



▲瑞穂史跡巡り健康ウォーキング大会



▲史跡案内板を設置

自治協 まち協

Q&A

◎現在、いくつの協議会がある?

◎A 佐原区域では、新島・北佐原・津宮・大倉・瑞穂・東大戸・竟成地区の7地区、小見川区域で小見川北・南・東・中央地区の4地区、山田区域は全域で5地区、栗源区域も全域で3地区、計19地区で協議会が設立されています。

◎住民自治協議会と自治会の違いは?

◎A 住民自治協議会は自治会(区、町内会など)より広いエリアで活動しており、おおむね「小学校区」を活動範囲としています。これは、エリアが広くなることにより少子高齢化、環境、防犯、地域コミュニティの活力の低下など、社会環境が大きく変化する中においても、地域住民自らが助け合いながら主体的に活動する組織となることが期待されるからです。

◎どのような人(団体)が協議会に入っている?

◎A 自治会、地区社協、民生委員、母子福祉協力員、PTA、子ども会、小学校、青少年相談員、消防団、高齢者クラブ、NPO・ボランティアなどの各種団体などから選出された人が、協議会の委員となっていることが多いです。また、地域活動に積極的な人に参加いただいている協議会もあります。